

# 進化 ← 長崎!!

特集

市民

市政

「ご意見」  
プレゼント

生活情報

子育て

健康

福祉

講演・講座

もよおし

お知らせ

募集

## 子どもたちのより良い教育環境を目指します

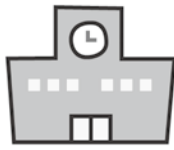
子どもたちが、集団生活の中で活気に満ちた活動ができるように、通学区域の見直しや統廃合による、学校規模の適正化と適正配置に取り組んでいます。

**長崎市が目指す子どもの姿を実現するために**

長崎市では、子どもたちが今後、急激に「変化」するこれからの時代を生き抜いて活躍できるように、自立を促し、社会性を育むことを教育目標の大きな柱としています。

義務教育が終わり、中学校を卒業した時に、自分の夢に向かってスタートできるように、子どもたちのめざす姿を「将来の夢や希望を自らの言葉で語り、実現に向けて努力している」としています。

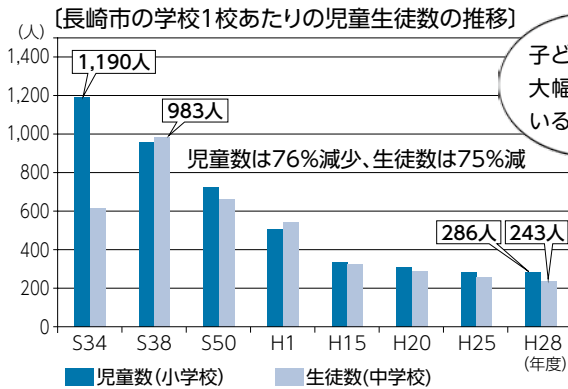
このような姿を実現するために、必要な教育環境について、地域や保護者のみなさんと一緒に考え、十分な話し合いを行っていきます。



**学校が小規模化しています**

長崎市の児童生徒数は、昭和30年代のピーク時から、小中学校ともに約7割減少しています。その一方で、学校数は大きく変化していないことから、1校あたりの児童生徒数がピーク時の約4分の1まで減少し、多くの学校で小規模化が進んでいます。

子どもの数が大幅に減っているね！



長崎市が考える望ましい学校規模

小学校	12～18学級
中学校	9～18学級

(理由)

- ・クラス替えができること
- ・学校全体の円滑な教育活動ができること
- ・同学年への複数の職員配置により共同研究ができること
- ・部活動の選択の幅が広がること
- ・全教科に職員を配置することができること(中学校)

**子どもが学びやすい**

**学校規模とは**

学校では、単に教科などの知識や技能を習得させるだけでなく、集団の中で、さまざまな考えに触れて認め合い、みんなで協力したり、切磋琢磨して子どもたち自身の考え方を深め、協調性を育んでいきます。

特に中学校の3年間は、同学年を含めた、さまざまな人間関係を通じて、集団のルールを学び、自らの個性や能力を伸ばす大切な時期です。このために、子どもたちを中心とした集団生活の中で、活気に満ちた活動ができる学校規模が必要です。

**実際に統廃合した地区の**

**かたにお話を伺いました**

コミュニティバスで

安心して通学できています



北海黒崎小学校教育友会会長 百田龍二さん

多くの保護者のかたが心配していたのが、通学でした。旧出津小学校区の子どもたちがバス通学になったんですが、登校時はコミュニティバスが学校内まで入ってきたり、下校時はバス停まで先生が見送りに来たりしてもらっているんです。子どもたちも安心して通学しています。

バランスのとれた

教育環境になりました

旧黒崎東小学校は、男の子が多く、旧出津小学校は女の子が多かったため、男女のバランスがとれ、クラス

【問い合わせ】  
適正配置推進室  
☎ 8 2 9 - 1 1 7 0

## 地域との話し合いで

### よくある質問を紹介します

#### ◆なんでクラス替えが必要なの？

クラス替えが可能になると、新しい友だちと新たな人間関係を築くことができ、今までは違った意見に触れることができます。

少人数クラスには子どもたちが仲良くなりやすいなど良い面もある一方で、友だち同士での馴れ合いや、メンバーが固定することで、クラス全体が一人の意見に引っ張られる恐れがあります。

いずれ子どもたちが社会に出ることを考えると、学校生活で多くの友だちと出会い、コミュニケーション能力を育むことが大切だと考えています。



#### ◆新しい学校へ通学する

#### 子どもの安全面は？

通学区域が変わったり、統廃合により、通学路が変わったりする場合には、統廃合の準備段階から保護者や地域のみなさん、学校、教育委員

会で通学路の安全点検を行います。

また、統廃合後にバスでの通学になる場合でも、子どもたちが安全に、乗り降りできるように、通学に慣れるまで教職員が下校時にバス停まで送るなど安心して通学できるようにします。また、関係機関と連携し、バスの増便やダイヤの変更などを行ったり、通学費の補助を拡大したりすることで、保護者の負担を減らし、子どもたちの通学環境づくりを行っていきます。

#### ◆統合先の学校には馴染めるの？

これまでも、子どもたちが安心して新しい学校生活を過ごせるように、準備期間の段階から学校間で交流授業をしたり、社会科見学などの行事や部活動などを合同で行ったり、PTAの交流などを行ってきました。

また、統廃合後も、それぞれの学校の教職員を一定数配置することで、新しい学校に通うことになった子どもたちの不安を取り除き、一日でも早く学校生活に慣れるようにしています。



## 保護者や地域のみなさんと十分に話し合っていきます

学校は学びの場であるだけでなく、避難所や地域のみなさんの交流の場などにもなっています。

また、学校を中心として地域がつけられてきた長い経緯や、保護者や地域のみなさんの思いなど、それぞれの地域の実態を踏まえながら、「子どもたちにとって望ましい教育環境とは何か」という視点を中心に、保護者や地域のみなさんと一緒になって話し合い、ご理解をいただいた上で進めていきます。

これまでの統廃合の事例をみても、従来からの地域のつながりを残しながら、これまで別の校区だった住民の方々が新しい学校に関わっていくことで、住民同士の新しい絆もできています。

今後も学校、地域、家庭が一体となって活動ができる教育環境をめざしていきます。



仁田佐古小学校 PTA 会長  
馬渡奈々さん

旧仁田小学校と旧佐古小学校が、統合前から合同で宿泊学習などを行っていたので、子どもたち同士も早く友だちになることができました。今まで、旧佐古小学校で行われていたバザーを統合後も引き続き行っていて、子どもと保護者が楽しく行事に参加しています。

#### それぞれの特色を受け継いでいます



旧出津小学校元 PTA 会長  
瀧口香代さん

の雰囲気さらに良くなりました。また、地域みんなで統廃合に取り組んだことで、地域あつての小学校だと改めて思いました。